



じょうもん えすでいーじーず 縄文とSDGs



北海道庁 縄文世界遺産推進室 特別研究員の阿部千春先生に、縄文と最近話題のSDGsについて聞いてみました

- ❖ 前回の話して、移動生活から定住生活に変わったことによって、家族の愛情や社会の絆が一層深まったというのはナルホドと思った(^^)
- ❖ それが、どんなに厳しい生活環境になってもその気持ちは変わらないんだ。
- ❖ え、そうなの？ どうしてそんなことが分かるの？
- ❖ 今から約4,200年前に一時的な寒冷化が起きて生活環境が悪化し、大規模な集落が小さな集落に分散する時期があるんだよね。その時期の集落が洞爺湖町の【入江貝塚】なんだ。
- ❖ そこなら知ってる！貝塚もあって、人のお墓もある遺跡でしょ？そこから見つかった手脚の細い人骨のこと？「介護されていた」と説明に書いてあったけど…。
- ❖ そうなんだ。幼いときに筋ジストロフィーかポリオなどの筋萎縮症にかかって、一人では動けない状態だったけど、家族や集落の仲間に支えられながら寿命を全うしたことをその人骨は物語っているんだよ。集落を縮小せざるを得ないくらい生活が厳しくなっても、弱者を大切に相互扶助の精神は変わらなかったということだね。SDGsの「目標3」のなかに「疾病による死を減らす」というターゲットがあるけど、その思いは一緒なんだ。
- ❖ 感動した…(涙)。私たちが縄文文化から学ぶことはいっぱいあるんだね。
- ❖ そうだね、それが縄文文化の普及に取り組む理由なんだ。
- ❖ これからもいろいろ教えてね！阿部先生。



JOBON

北海道発
縄文初心者むけ
やさしい縄文読本



北海道・北東北の縄文遺跡群 デジタルアーカイブ

北海道・北東北の縄文遺跡群に関する情報(写真画像動画、調査研究成果等)を、誰でも無料でダウンロードすることができます。



<https://jomon-japan.jp/archives>

<北海道発> 縄文初心者むけやさしい縄文読本



JOBON

「縄本」のバックナンバーはこちらからダウンロードできます。



www.jomon-do.org/jobon

※本リーフレットは「北の縄文道民会議」公式サイトからダウンロードし、幅広くご活用(印刷、無償配布等)いただけます。ただし価格をつけての販売や内容の改変は禁じます。著作権は制作者に帰属します。詳細はwebサイトにてご確認ください。

<北海道発> 縄文初心者むけやさしい縄文読本【縄本 JOBON (ジョーボン)】vol.05「ストーンサークルの謎」
発行日: 2022年10月1日 / 制作・発行: 北の縄文道民会議、ドニワ部 / デザイン・イラスト: 種田 梓、上田 忠太郎、To.t



JOBON に関するお問合せ
北の縄文道民会議
札幌市中央区大通東1丁目3中央バスターミナル2F
CBツアーズカンパニー内 TEL: 011-221-1122

世界文化遺産の縄文遺跡群に関するお問合せ

北海道環境生活部文化局文化振興課
縄文世界遺産推進室
TEL: 011-204-5168

ストーンサークルの謎

縄文時代後期に出現したストーンサークル。

縄文人は、なぜこの場所を選び、何をするために、こんなにも大がかりなものを作ったのでしょうか？

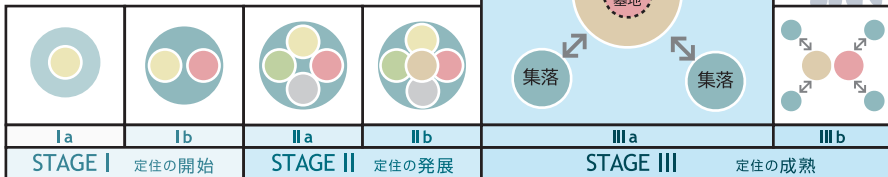
考えれば考えるほどミステリアス。

この場所に立つと、少しだけ縄文人のココロに近づけるような気がしてきます。

詳しくはこちら



縄文時代の後半を迎えると、気候が冷涼化してムラは小さくなり分散して住むように。その頃に「ストーンサークル」が出現しました。



いつ?
When

だれが?
Who

どこに?
Where

なんのため?
Why

どんなかたち?
Shape

場所の選定はとっても大事！シンボリックな山や海があったり、太陽の運行と深く関わっている場所だったり…。

周辺のムラから集まった大勢の人たちが、何kmも離れた場所から重たい石を運び、何十年もかけて作ったと言われるものも。

大きさ、石の数や積み方、円環の数、お墓の有無、出土品など、その特徴や形態は様々。たくさんの謎に包まれています。

命の誕生や再生、豊かな実り、自然災害からの安全…等を祈っていた、と言われています。

気候変動と縄文人の暮らし

「完新世に起こった4.2kイベント」。この4,200年前に起こった寒冷・乾燥化は、エジプトの古王朝、メソポタミアのアッカド王国、中国の良渚文化をも崩壊に導いたといわれている。

日本の縄文文化もその例外ではない。青森県の三内丸山遺跡や北海道の大船遺跡などの拠点集落もこの頃には姿を消し、集落の縮小・分散が顕著になる。生活環境が急速に悪化したためだろう。集落の縮小・分散が一番困るのは、若者の減少で集落内での婚姻が極めて限定されることである。安定したDNAの存続、いわゆる子孫繁栄のため、縄文人はどんな知恵を生み出したのだろうか？

C.Abe

<出産・子育て>

縄文時代にも、経験上、小さなムラの中だけで結ばれていくと、死産とか、奇形や障害を持った子が生まれやすくなって、良くないらしいというのはわかっていたんじゃないかしら。そういう意味で他の地域の人との交わりはとっても大事だったと思うの。

じゃあストーンサークルでの「ムラコン」は、外部の血を入れるという意味で、重要な目的を持つ行事になるわね。

例えば夏至のあたり6月頃に祀りで交流があったとしたら、大体10か月後の4月くらいに子供が産まれるって感じね。夏至を基準にすると、寒い季節を避けて出産できるし、あたたかくなって食料も豊富になり始める春にムラのみんなで協力して子育てができて合理的なのかも。

そっかー！だから夏至の太陽を目印にするようなストーンサークルが多いのかな。すごい！

同じくらいの時期に一齐に出産したとしたら、たくさんおっぱいが出るお母さんは赤ちゃんに授乳して、おっぱい出ないお母さんは、子供のお世話をしたりごはんを作ったり。もしも産後体調がなかなか戻らなくても、みんなに任せて安心してゆっくり休めるよね。

産んだお母さん一人に子育ての責任を押し付けるんじゃないくて、ムラがひとつの家族として、協力して子供を守り育てていったのかもしれないね。

それは子供にもお母さんにも優しい世界！現代でも見習いたいシステムかも。

死産や、病気、ケガなどで早くに命を落とす子供たちも多かっただろうから、

ムラの存続のためにもたくさんの子供を産んで、みんな元気に育つように、とにかく必死だったんじゃないかしら。

今でも出産子育ては命がけ！私は出産のとき本当に大変だったから、医療も発達していない縄文時代には、どんなに不安で大変だったかって考えただけで涙出そう…。せめてムラの共同子育ての仕組みのおかげで、お母さんの不安や負担が少しでも和らいでいたならいいな。

ほんとにそうね…。

<ストーンサークルの役割>

ストーンサークルの下や周辺からはお墓が出土することもあるの。この場所で縄文人は祈り、出会う。そこにどんな意味があったのかしら。

祖先が眠る場所で男女が会って、その命を次に繋げていく。

大自然に抱かれながら新しい命を授かる。

祖先と自然は、縄文人にとって最も感謝とリスペクトの気持ちをもつ存在なんだろうね。遠くからわざわざ重たい石を山の上に運んで、何年もかけてストーンサークルを作る。それだけの労力をかける価値のあるとても大事な場所だったのね。

「死」というものが今よりもっと身近にある毎日のなかで、人の力の及ばない大きな存在を近くに感じながら、縄文人は生きていたのかな。

命の終わりりと新たな誕生…。命の循環を象徴しているからサークルなのかも。ストーンサークルは想像以上に深い意味がある場所だったようね。

(次回につづく)

★【縄文女子の妄想トーク】は、縄文をこよなく愛する縄文女子たちの個人の主観に基づく妄想トークがメインになっています。学術的に正しいかどうかは置いておいて、素人目線の「こうだったのかな」「こうだったらいいな」という妄想ワールドを、どうか生暖かい目で楽しんでいただけたら嬉しいです。